

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>(1)英語、国語、数学の週課題の生徒への計画的な提供を行い、課題回収率90%を目指します。</p> <p>(2)家庭学習時間の調査を年間5回実施し課題内容の精選により</p> <p>①家庭学習時間の平均が1.0時間を超えることを目指します。</p> <p>②家庭学習時間0の生徒の低減を目指します。</p> <p>③授業交流を年間2回実施する。6月・11月を予定し、授業内容・生徒活動・その他情報交換を行い授業内容の向上を目指します。</p>	<p>(1) 1年生で88.7%。2年生で91.9%。トータルで90.3%となり、目標である回収率90%には達することができた。</p> <p>(2)</p> <p>①平均学習時間は1年生が1.0時間、2年生は0.8時間と昨年度より若干減少した。</p> <p>②家庭学習時間0時間の生徒は2学期末調査で、平日学習時間0時間は1年生で13%、2年生で23%、3年生12%であった。</p> <p>③全員授業参加を実施した。参観シート提出数は、6月が16人、11月が13人であった(53名対象)。提出率は低いが、「他の教員の授業が大変参考になった。」という意見が多くあった。</p>	<p>週課題未提出者は、欠席が多く補習等の対象者が多い。また家庭学習時間も0である。また課題提出者においても次のような課題がある。</p> <p>・授業の合間や、提出日前日に急いで解答を写す等で週課題を終わっている生徒がいる。</p> <p>・覚えよう、理解しようという意欲が伴わず義務的に取り組んでいる面がある。</p> <p>本来の目的である「学習スタイルの確立」「確かな学力の定着」を目指し、日々の懇切丁寧な生活指導・学習指導に努めているが、惰性との戦いが必要である。生徒アンケートでは「授業はわかりやすく丁寧だ」が72%と高いのに比べ、「授業を理解するため積極的に努力している」が全体平均 33%と低い。「自ら進んで学習する力」を身につけるための授業内容・指導を考えていく必要がある。</p>
生徒指導	<p>①学年、家庭と連携し遅刻指導を徹底させ、その数の10%減少に努めます。</p> <p>②貴重品や自転車などの管理を徹底させ、物を大切に育てます。</p> <p>③学年と連携し頭髪や制服指導を徹底させ、規範意識の向上に努めます。</p>	<p>①昨年度比 28%増になってしまい、一昨年の状態に戻ってしまった。しかし、欠席数や早退数は減少した。</p> <p>②金銭や自転車の盗難が5件発生した。昨年度の17件からは、かなり減少したが、依然無くなる。</p> <p>③ネクタイ、シャツ出し、スカート丈、カーディガンに違反者が依然としてなくなる。頭髪については、昨年に比べ染色してい</p>	<p>①以前より大幅に減少し、一定状態になってきている。徒歩通学者も自転車通学者も雨や風の強い日に遅刻が多くなる傾向があるので、時間に余裕をもって家を早くでるように、より丁寧な指導をしていきたい。</p> <p>②貴重品管理、自転車の施錠などの大切さをことあるごとに指導し、生徒各自の防犯意識を高めていきたい。</p> <p>③服装指導を強化する日として、服装終日指導を毎月2日設けたが、スカート、腰パンに関して毎月数十人の違反者が出ている。また、ネクタイ下げ、違</p>

	<p>④挨拶運動の推進や登下校指導などを通し、社会的マナーを身につけさせます。</p>	<p>る生徒の数は減少しているが、男子の髪の毛の長さ違反が増えている。</p> <p>④毎朝の校門での挨拶指導で自分から挨拶をする生徒は半数程度である。また通学路、電車内でのマナー等に関しては、依然として苦情がある。変質者被害も数件あった。</p>	<p>反カーディガンも多く、今後の課題である。頭髮に関しては、検査前に、自主的に改善するように指導したい。</p> <p>④挨拶の大切さを話ながら、根気よく声をかけていきたい。苦情をいただくと、その都度HR指導や集会で講話を行った。女子生徒には、複数での下校を強く指導して、変質者被害を防ぎたい。また、下校時の通学路を改善変更し、安全確保に努めた。</p>
<p>進路指導</p>	<p>①職業や学部・学科についての関心を高め、進路に関する資料の貸出率を昨年度より25%増加させます。</p> <p>②進路に関する資料を充実させ自ら望む進路実現度80%を目指します。</p> <p>③「模擬試験の記録」の活用度80%を目指します。</p> <p>④学年の枠を超えて生徒の進路指導をサポートする体制を整えます。</p> <p>⑤四年制大学進学率75%を目指します。</p> <p>⑥センター試験受験者数220名(第3学年生徒の70%)以上をめざします。</p> <p>⑦進路新聞」年25号の発行と、学年別「進路だより」年10号の発行を目指します。</p>	<p>①前年度比10%の減</p> <p>②自ら望む進路実現度・・・生徒へのアンケート調査結果では80%</p> <p>③総合学習などで準備や指導時間も確保されたが、まだまだ十分に活用は出来ない。</p> <p>④1・2年担任学習会、大学出願指導学習会を年間計画に位置づけ計4回実施した。</p> <p>⑤四年制大学進学率は、3/5 現在65%で、目標だけにとどまった。</p> <p>⑥第3学年生徒の70%に相当する223名が受験した。(一昨年202名、昨年206名)</p> <p>⑦教職員向け「進路新聞」は3月初旬までに22号、学年通信や進路だよりも各学年からも10号前後発行された。</p>	<p>①前年度の貸出数が非常に多かったため、その反動もあるが、意識を高めさせたい。</p> <p>②生徒が最後まであきらめず努力した結果、私大一般入試では健闘も見られた。一方、推薦入試等ですでに進学先が決定した生徒の多くも、センター試験受験をはじめ大学入学までの期間に気持ちを切らすことなく学力を保持するなど、まさに学年全体で個々の進路実現をめざす「受験は団体戦」そのものが今年も表れた結果だと考える。</p> <p>③保護者から個人面談の充実も求められているので、各時期の面談のテーマを明確にし、その機会に活用できるよう工夫したい。</p> <p>④生徒の進路指導をサポートするため教員の技量を高める取組の中身も少しずつ充実したものとなっている。来年度以降もより発展させていきたい。</p> <p>⑥四年制大学志望者にとって、センター試験の重要性がかなり浸透してきたと言える。</p>

	<p>⑧保護者向け進路講話を充実させ、情報提供等を含めた満足度85%を目指します。</p>	<p>⑧3年生保護者アンケートで、進路情報提供に関しては86%、進路関連行事は90%、進路指導全般では90%の「満足(参考になった)または「おおむね満足」との回答を得た。</p>	<p>⑧保護者より「1・2年保護者向けの説明会を増やしてほしい」「親と子で情報格差があるので、生徒向けガイダンスの内容を保護者にも逐一知らせてほしい」などの要望があった。限られた機会の中で、重要な情報をいかにバランスよく提供できるのかをさらに追求していかなければならないと考えている。</p>
--	---	---	--

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
<p>強 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路自己実現に向けたきめ細かな指導が定着しつつあり、学校全体としての意識が少しずつ変わりつつある。生徒理解を進め、より良い進路実現のためのノウハウの探求が徐々に進んでいる。 ・本校の状況をHPや地域の通信に定期的に継続して発信していることで、地域の本校への関心を高め連携をより一層深めることができている。 ・学年団が中心になって生徒たちに「継続して丁寧なねばり強い指導」が続けられている。そのことに関して生徒や保護者アンケートにおいて学年進行で高い満足度として現れている。 ・学校評議員からは、以前より生徒の評判や学校の取組に賛辞をいただいている。しかし、それに甘えることなく目指す学校像をより追及することが本校の使命であると考えている。
<p>弱 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な部分での教員の力量を高めようとする取組(授業交流、進路検討会等)は定着してきたが、広く学年の枠を超えて全体の問題としての意識は低く、まだまだOJTや授業力アップのための取組等には、工夫の余地がある。 ・すべての教職員の学校経営へ参加意欲、教職員のやる気を引き出す工夫や満足要因・不満足要因を分析し改善へつなげる等の組織力向上への取り組みの自己意識が低調である。 ・仕事量等への不公平感が、昨年度よりは解消されたがそれでも満足度は高くない。また、組織の中心となる人材育成についても満足度が低い。 ・部活動の重要性は認識されているが、教員の年齢層の高さや、専門家・経験者不足の多い現状では、生徒・保護者の様々な期待に十分応えているとは言えない。

(3)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
<p>関係者評価</p>	

(4) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

数年前、本校では多くの面で規律のない安易な学校生活を送る生徒が多かった。そこで、徹底した生徒指導と丁寧な学習指導によって、多くの生徒たちが規範意識を高揚させ、互いを大切にする気持ちを持ちながら、目指す進路実現を図ろうとするようになり、進路実績や生徒の行動等において保護者、地域、卒業生等から高い評価を得られるようになった。しかしながら、教職員の異動等に伴い問題意識の希薄化や本校の教育理念「自主・自立をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指す」に対する多様な考えが進行しつつあるように思われる。そこで、管理職がリーダーシップを発揮し、問題点を明確にし、オフサイトミーティング等を通じて共有化を図り、明るいユーモアのある職場づくり・互いが互いを尊敬し大切に思いやることのできる雰囲気づくりを進め、授業、生徒指導、進路指導、部活指導のスキルアップに努めるとともに組織の中心となる人材育成を進めたいと考えている。